

# 令和5年度 消防長「政策宣言」達成状況

消防長 竹内 秀樹

## ○ 令和5年度重要事業

事業名	防火安全対策の強化
目標	住宅火災による死傷者を減らすため、住宅用火災警報器の設置及び適切な維持管理の推進を目指し市民への周知に努めます。 また、幼年・少年消防クラブを通じて子供たちへの防火教育を行うとともに、引き続き高齢者を対象とした防火指導を行います。
年度末達成状況	今年度、住宅火災による死傷者を減らすため、1,926軒の住宅を訪問し、防火の指導や、住宅火災警報器の設置・維持のPRに努めました。 また、子供たちへの防火教育も、避難訓練や各種イベントを通じて行いました。先生方のご指導もあり、熱心に「火の用心」を学んでいただきました。
自己評価	残念ながら、2月に火災による死者が1名発生しました。令和2年以降火災による死者は出ていなかったため、非常に残念であります。今後も引き続き住宅防火診断を計画的に実施し、火災による死者ゼロを目標に、職員一丸となって取り組みます。

事業名	消防活動力の強化
目標	火災による延焼防止を目標に放水開始時間の迅速化を図り、消防団とも連携を強化した消火戦術により、効率的な消火活動を目指します。 また、救急需要の増加に伴い管轄区域以外への出動により救急車の現場到着時間が伸びていることから、適正利用のPRや5台の救急車の効率的な運用を行い現場到着時間の短縮に努めます。
年度末達成状況	消防団の方々の消火技術を競う操法大会を実施したこと、また、ポンプ車の取り扱い講習を行ったことで、団員の方々の習熟度が向上しました。また、火災予防運動期間中の訓練において中継訓練を行ったことで連携が強化されました。 救急車の現場到着時間の短縮については、救急出動件数が前年同期比160件増ですが、出動指令の迅速化や出動準備の改善で約1分間短縮されました。
自己評価	昨年の12月に、1日に2件の住宅火災が発生しました。火災注意報発令中の強風の吹く中、懸命の消火活動により、隣家への延焼は免れました。これらは、日頃の訓練により、消防団の方々との連携協力が功を奏したものと思っています。

事業名	消防力の維持・強化
目標	<p>立地的に不都合のあった分団屯所を老朽化による建て替えと同時に移転をすることで機動力を高めます。また老朽化した消防ポンプ自動車を更新し、消防力の維持に努めます。</p> <p>引き続き消防団員の加入促進及び消防団員の装備更新を行い、安全性を向上させ消防団活動の強化につなげます。</p>
年度末達成状況	<p>7月に二口分団、12月に新湊分団それぞれの屯所が完成し、団員の方々が活動しやすい環境となりました。しかしながら、消防ポンプ自動車の更新については、自動車メーカーからのシャーシ（車台）の供給が遅れていることから未だに納入の目途が立っていない状況です。</p> <p>消防団員の装備更新については、火災の際に着用する防火衣や防火帽を更新し、安全性が高まりました。</p> <p>消防団員の加入促進については、新たに20名の方々に入団していただきました。地域の安全・安心を確保する重要な役割を担う方々が引き続き入団していただけるよう、PRに努めます。</p>
自己評価	<p>令和6年能登半島地震により、多くの被害が市内でも発生しました。消防団の方々には発災直後から活動していただきました。その活動拠点となる分団屯所を今後もより良い環境となるよう努めます。</p> <p>また、災害活動に際し、安全管理が徹底されるよう職員、団員の装備の整備だけでなく講習を実施します。</p>